

平成28年 第2回定例会 一般質問

質問1 防災対策及び減災対策について

質問2 病児・病後児保育施設について



野村 光宣 議員

質問1

①水と食料の備蓄量 ②地区防災備蓄庫の中身と運用方法 ③町防災訓練における非常持出品等の展示コーナー設置 ④避難所運営マニュアルの見直し日程と設置訓練 ⑤自主防災組織の活性化策 についてお伺いします。

答弁（総務部長）

- ①平成28年3月末現在の備蓄量は、飲料水6,900リットル、乾パン等の食料品13,108食です。今年度中に、それぞれ追加し、総備蓄量は、飲料水9,000リットル、乾パン等の食料品14,580食となります。これらは、南海トラフ巨大地震を想定した県のシミュレーションによる避難者数846人の3日分を想定した備蓄量となっています。
- ②各小学校に設置した防災備蓄倉庫には、ワンタッチリアカー、災害用トイレ等で、被災想定に応じた物資の仕分けを行い、カギの保管場所を明確にするなど、学校等関係機関と協議して避難所運営マニュアルの見直しを進めます。
- ③10月23日実施予定の防災訓練では、昨今の災害や住民の防災意識への高まりを考慮し、より現実的な内容で行いたいと考えております。会場では、非常用持出品などの展示コーナーを設け、住民の方々に更なる防災、減災意識を高めていただき、家庭でできる防災備蓄品の必要性を考えていただける機会として計画します。
- ④避難所運営マニュアルの見直しは、熊本地震、広島の土砂災害、鬼怒川の氾濫など実際に生じた課題を想定して、次回防災訓練までに行いたいと考えています。
- ⑤今年の防災訓練には、避難所運営訓練を実施することで地域防災組織の活性化につなげたいと考えています。

質問 2

①大野町近辺の病児・病後児保育施設の過去3か年の町内児童の利用実績についてお伺いします。②安心して子育てができるまちづくりを推進すべく、町内に病児・病後児保育施設を設置されてはいかがでしょうか。

答弁（民生部長）

- ① 現在、町が他市町と協定を締結して町民が利用できる病児・病後児保育施設は7カ所ございます。このうち、利用頻度の高い4施設の過去3か年の利用延べ人数は、岐阜市福富医院内「すずらん」で36人、岐阜市山田医院内「ミッキー」で17人、北方町本多医院内「バオバオ」で8人、揖斐川町揖斐厚生病院内「いびっこ」で42人でした。
- ②今年4月に町内の医療機関に病児・病後児保育施設の開設を依頼したところ、社会福祉法人浩仁会から事業の実施について協議可能との回答をいただき、先日開設に向けて大筋の合意を得ることができました。今後は、早急に開設するよう取り組んでまいります。

質問 1 道の駅の進捗状況と道の駅を中心とした町づくりの戦略的施策について

質問 2 大野町福祉サロンの設置について

宇野 等 議員



質問 1

平成30年開駅に向けて、あと2年弱となった今日、道の駅の進捗状況はどうなっているのでしょうか。このプロジェクトは各課にまたがっており、縦割りではなく横断的組織をつくり、取り組んで進めない間に合わないのではないかと思います。お伺いいたします。また、道の駅にかける想いと情熱についてもお伺いします。

答弁（町長）

道の駅につきましては、農業や商工業など地域産業の創出、観光拠点や地域住民の交流、さらに福祉や防災、公共交通など町発展の起爆剤となる事業でございます。町としましては、昨年度、役場内に政策財政課、総務課、福祉課、健康課、農林課、観光企業誘致課、建設水道課、生涯学習課で構成する「道の駅建設準備会議」を設置いたしました。この会議では、関連事業について平成30年度までのスケジュール整理や課題の洗い直しとその対応を検討してまいりました。今後は、この会議を副町長をトップに担当部課長で構成する「（仮称）道の駅地域振興連絡会議」へと発展させ、プロジェクトの進行管理やソフト面の対応強化をしてまいります。具体的な取り組みとして、野菜や加工品の出荷希望者を発掘し、出荷研究会を立ち上げ、多品目の野菜栽培等に取り組まれるよう促します。また、加工品については、加工品に取り組まれている町内団体への支援について早急に対応していきたいと考えております。さらに、町内の直売所との関係は、売れる野菜の生産を増やす取り組みや柿加工品プロジェクトチームによる6次産業化の取り組みなどで、大野町の農業全体を発展させることで共存共栄の道を切り開きたいと考えております。この他にも、特産品の開発、観光拠点としての取り組み、公共交通、広域防災拠点、子育て支援施設、健康作りの拠点など多岐にわたる事業に取り組むため、道の駅地域振興連絡会議でしっかりマネジメントします。最後に、私の意気込みとして、平成31年度の大野・神戸ICの開通、そして東海環状自動車道の全線開通は、大野町政始まって以来最大のチャンスと捉え、このチャンスを活かす最大の取り組みが道の駅です。地方における雇用の確保、移住定住の推進、地域拠点の整備など地方創生そのものであると言っても過言ではありません。私の政治生命をかけて取り組んでまいりますので、町民の皆さま、議会の皆さま、各団体の皆さま、大野町発展のため一緒になって取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

質問2

昨年12月議会で取り上げ、空き店舗を利用して「福祉のアンテナショップ」また「行政のアンテナショップ」として地域の活性化のための再利用の質問をしましたが、その後の進捗状況はどうなっていますか。お伺いいたします。

答弁（民生部長）

昨年 12 月定例会の一般質問に対し、「設置にあたっては、町民のニーズ、事業主体の決定、場所、どのような機能で行うのかという課題があり、早々に調査、研究、そして決定していきたい。」とお答えしております。現在、町内 14 箇所で開催されているふれあいサロンは、地域のつながり、見守り、安否確認等のみならず、福祉・健康等の相談、講習会の場としての利用が可能であると考えます。福祉サロン開設場所としては、地域の集会所などが適切ですが、立地条件により空き家・空き店舗の活用も考えられます。近隣市町も大型店に福祉サロンを含め、アンテナショップの設置を考えているようであり、当町でも地域活性化のため空き店舗等を利用して、広く地域振興に係るアンテナショップ、道の駅のプレショップ、行政機関等の各種情報発信や立地条件等を活かした様々な利用について、関係団体と協議しながら調査・検討を更に続けていきます。

質問 1 子育て支援事業について



山川 満 議員

質問 1

大野町指定地域子育て支援センターの現状と課題及び課題解決に向けた方策について、また道の駅に開設されます子育て支援センターの運営方法や子育て支援サービスの向上施策等について、お考えをお聞かせください。

答弁（民生部長）

現在、町内の地域子育て支援センターは、豊木認定こども園に「ももたろうクラブ」、幼保連携型認定こども園東さくら子ども園に「すくすく」、認定こども園大野クローバー幼稚園に「レインボークラブ」の 3 カ所が開設され、育児相談、子育て情報の提供等を通じて、子育てに関する支援を行っています。課題としては、各センターともに認定こども園の敷地内にあるため、入りづらいとか、3 施設が町北部よりにあるため、遠方の地域の方からは利用しにくい。また、利用スペースが不十分とか土日祝日に開所していない等があ

ります。そこで、平成 30 年度開駅予定の道の駅に、これらの課題に対応した子育て支援施設の開設を予定しております。ここでは、離乳食教室や育児相談、親子で遊べる場所の提供、親同士の交流など事業の拡充を図るとともに広く情報発信を行って、子育て世帯の支援に向けた取り組みを推進してまいります。道の駅に新設する子育て支援施設の取り組みは、福祉・健康・教育・観光等様々な方向から全庁的な体制で検討するとともに、子育て支援に情熱のある N P O 法人や社会福祉法人などの活用も視野に入れ、魅力ある施設となるよう子育て支援の拡充を目指してまいります。

質問 1 I C T (情報通信技術) 活用教育について

質問 2 広報閲覧アプリについて

ひろせ 一彦 議員



質問 1

電子黒板やタブレットなどの情報通信技術を活用しての授業が広がりを見せる中、本町においても授業の効率化を図る上で I C T を活用しての効果的な授業をお考えになってはいかがでしょうか。

答弁 (教育長)

本町教育の I C T 化については、電子黒板が各学校に 1 台~2 台導入され、理科や社会等での資料や映像提示のツールとして、また体育では録画した仲間や自分の動きを客観的に評価するためのツールとして有効に活用しています。タブレット P C は未だ導入していませんが、授業の効率化、情報教育の観点から今後は必要であると考えております。モデル校を指定して先行的に活用を実践し、平成 32 年度以降に全小中学校に導入する予定です。今後は、導入を見据えて他市町の情報収集、教員研修を進め、I C T を活用しての効果的な授業が行われるよう準備してまいります。

質問 2

ダイレクトに多くの人が手軽に町の情報に触れることができるように「広報おおの」の情報配信アプリをお考えになってはいかがでしょうか。

答弁（総務部長）

町広報紙は、毎月広報委員を通じ各世帯に配布し、また町ホームページにも掲載してパソコンやスマートフォンなどからの閲覧が可能となっています。ご提案の広報閲覧アプリケーション「i 広報紙」は、自治体に特化した新しい広報ツールで、スマートフォンやタブレット端末から広報紙などが閲覧できる無料のアプリケーションです。いつでもどこでも手軽に広報紙が読め、広報紙をあまり読まない世代にも伝えることができるばかりでなく、町外の方に大野町を知っていただくきっかけとしても有効な手段であると思います。現在配信している市町の状況を鑑み、登録に向けて進めてまいります。

質問 1 EM（有用微生物群）を活用した学校プール・トイレ清掃について

質問 2 大野中学校テニスコートの整備について



小森 小百合 議員

質問 1

小・中学校のプール・トイレ清掃にEM活性液を活用することで、環境浄化と環境問題に対する児童・生徒・保護者の意識を啓発することにもつながると考えますが、ご所見をお伺いいたします。

答弁（教育長）

平成 18 年頃より、総合的な学習の教材として、堆肥づくりを行う小学校が県内にも見受けられ、同時にプールやトイレ清掃に活用する実践も見られるようになりました。プールに使用した効果については、清掃の 1 ヶ月前に投入しておくことでプールに落ちた葉がほぼ分解され、底のぬめりも取れ、塩素剤を用いなくても清掃がしやすくなったと聞いております。一方、プール清掃でEM菌発酵液を大量に排水すると、高濃度の有機物が含まれる微生物資材を河川や湖沼に投入すれば汚染源となるとの見解をまとめ発表した自治体もあります。町内各学校のプール清掃においては、塩素剤を用いなくても清掃ができる程度の汚れであり、総合的な学習時間数が削減され活動が精選

されていることに加え、科学的根拠、生態系への影響について議論されていることから、現時点でEM菌を活用することは控えたいと思っています。

質問 2

現在 100 名近い部員に対し 2 面という状況は、生徒が部活動に取り組む上で好ましいとは思えません。何年も前から不自由していることから、テニスコートの整備・増設が必要であると考えますが、ご所見をお伺いいたします。

答弁（教育長）

大野中学校のテニスコートは平成 27 年に表土の入れ替え等を行いました。雨天後に使用できないことがあることや 100 名近い部員数を抱え、東庭球場を用いても十分な広さが確保できないなど運動技能向上を目指す上で不都合が生じていることの情報を得ています。しかし、こういったことはどの部活動でも程度の差はあれ、見受けられることであり、そうした条件の中でも、岐阜県運動部活動指針「スポーツに親しませ学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養に資する。」の具現のため、どの部においても努力していただいているところです。

本年度、東庭球場の改修工事を予定しておりますが、夏の中体連に向けての練習に不都合が生じることが予想されますので、これについては改修工事の実施時期を考慮するなど方法で対応してまいりたいと思います。